
現の華

朝平 夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現の華

【Nコード】

N4243A

【作者名】

朝平 夜

【あらすじ】

明智光秀の裏切りにより起こった本能寺の変。武将・織田信長を…主を守ろうと、小姓・森蘭丸は慣れない刀を握る。

(前書き)

当作品は私の想像上の話です。歴史好きな方々には、拙い文章、ストーリーであることをご理解下さいますようお願い申し上げます。

どうすればいい？

まだ幼さの残る顔立ちの少年は、殆ど握ったことのない刀を片手に苦悶の表情を浮かべた。仲間達は皆、慣れない武器を手に戦っているのに。

（何故…何故光秀様が御謀反などと）

自らの主に反旗を翻した人物…明智光秀。自らの主…織田信長の家臣だった彼が、何故。

軍勢が本能寺を取り囲んでいる。彼のもとに居るのは、自分も含め戦力にはならない小姓ばかり。少年は、自らの非力さに憤りを感じた。

（私は、何のためにそばにいるんだ？）

（…彼を守るためだろうか？）

（……たった少しでも、こんな自分でも、少しの役にはたてるだろう）

（ならば戦おう。私がやらなくて、誰が…）

「お蘭よ」

ハッと声のする方を振り向く。

そこには、この状況でも凜とした顔立ちの主がいた。少年は泣きそうになった。…なんと堂々としておられる…。このような事態を、初めから理解していたかのような。

「刀を離せ」

「しかし…っ」「よいのだ」

なんと優しい目をなさるのだ。少年は眉を寄せ、ゆっくり言われるがまま刀を床に置いた。

「…信長、様…」

「儂は幸せだ。…お前がそばにおるのだから」

「…っ」

柔らかな手つきで髪を撫でられた。大きな手だ。そして、温かい。生きている。この一瞬を。

「わ、私は、悔しゅう御座いますっ：貴方が、何をしたと言うのですか！」

声を荒げる。止められない。少年の思いは、それほどに熱く大きなものだった。

「私は知っています、貴方の素晴らしいところを全て！光秀様は知らないだけなのです、光秀様に何がおわかりになるのですか！私は……」

花卉のような涙が、ほろりほろりと少年の頬を伝う。

それを見て主は、笑った。

「な、何故このような時にお笑いになるのですか！？」

「ふ……まだまだ子供よ」

「え？」

涙が、ぴたりと止まった。赤くなった頬を見てまた笑いながら、主は続ける。

「いつも……気丈で、何事もそつなくお前はしておった。……だが今のお前は？感情の儘に泣き、怒り……まるで赤子よ」

その言葉に、少年は恥ずかしくなった。もしか、失望されたのかと不安に思いながら主を見上げる。しかし主は、優しい笑みを浮かべ少年を見つめていた。

「……それが、本物のお前か」

「え？」

「それこそ年相応のおのこの姿……お蘭の真の姿は、このように熱く幼いのだな」

刹那、ゆっくりと主は少年を抱き寄せた。

「もう良いだろう？……少し休まぬか。疲れたわ」

そのまま床に2人で座り込む。主の言葉に、少年はゆっくりと頷いた。主の柔らかな表情を見ると、恐れることなど何もなくなっ

た気がした。

「…私も、少々疲れました。刀はどうも私には重う御座います」

「ふ、お前は儂の世話さえしておればよい。血を浴びるのは…儂らの役よ、のう？」

「……はい」

少年は主から離れると、室内を照らしていた松明を取り、滑るような動作で床に落とした。炎が音をたてる。火が、床を焼いてゆく。寺が、燃えてゆく。

「…貴方の眠る姿を、誰にも見られたくないのです」

少年は後ろから、主を抱き締める。優しく、力強く。

「儂も、お前以外の誰にも見られとうないわ」

辺りが白く煙ってゆく。熱い。苦しい。

だが2人は微笑みを浮かべていた。

主は少年の手をほどくと、少年の膝を枕にして横になった。

「…信長様」

「良いだろう？」

「…勿論で御座います」少年は、白い手のひらで主の目元を覆ってやる。

「ごゆっくり、お休み下さい」

…私は、そばにおりますよ。

炎は瞬く間に2人の周りを囲み、彼らを包んだ。

主は幸せだった。綺麗な少年の手を、守れたから。血にまみれるのは、自分達だけで充分だから。

少年は幸せだった。主の涙を見なくて済んだから。主の笑顔を、自らの瞼の裏に焼き付けられたから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4243a/>

現の華

2010年10月14日23時03分発行